

令和2年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

平成20年3月21日設置

フィーダー系統 令和元年6月12日 確保維持計画策定等

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
山岡地区、岩村地区におけるデマンドについて、住民・利用者のニーズや利用状況を把握され、効果的な実施が行われることを期待します。	両地区の利用促進協議会において状況把握を行い、要望のあったバス停の新規設置及び移設を行った。また、岩村地区では、4月より当日予約を可能とした試行を開始をした。	今後も地域の実情に合わせて、地域、事業者、行政が一体となり、柔軟な取り組みができるように検討を行う。
新規利用者の獲得に向け効果的な利用促進策が行われることを期待します。	・標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)データ整備(市自主運行路線、営業路線、鉄道)。 ・年度内に恵那駅前にデジタルサイネージによる運行情報の案内を行うよう準備中。 ・上矢作町移動支援再検討会委員によるバス乗車体験会を開催し現調査を行った。	明知鉄道を基幹路線とする恵那市、中津川市阿木地区の交通ネットワークをより連携し、地域全体で守り育てる意識を持ってもらうよう地域、事業者、行政が協力し、令和3年度は施策内容の検討や組織体制の在り方も含めて検討を行う。

【沿線地域の特性】

- ・恵那市・中津川市は、山間地が多くを占め、岐阜県東濃地域に位置している。
- ・恵那市の人口は49,281人、中津川市阿木地域の人口は2,121人（令和2年10月1日現在）

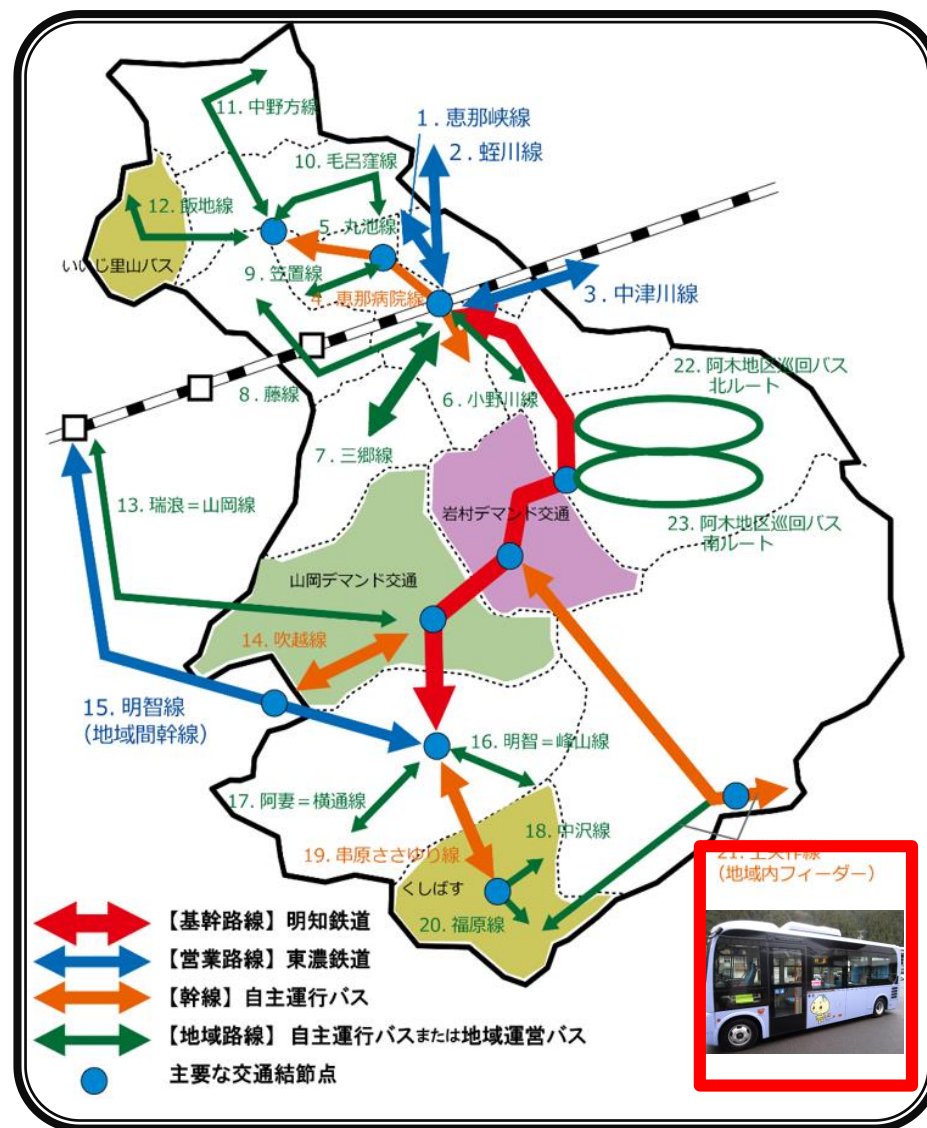
第二次明知鉄道沿線地域 公共交通網形成計画 (計画期間：令和元年～5年度)

【基本的な方針】

多くの担い手が連携し、
多くの方々が安心して暮らし、
おでかけできるまち

計画の目標

- 目標1** 公共交通を「支える」「活用する」
地域住民の活動促進
- 目標2** 沿線への移住定住を促す地域公共
交通ネットワークの形成
- 目標3** 域外から来た人や高齢者が抵抗なく
自然に移動できる県境の整備



◆ 具体的な取組内容 ◆

①【明知鉄道「ふれあい列車」の活用】

コロナ禍で多くの学校等の行事が中止や縮小する中、「コロナ禍だからこそ、こんなことができた」という新たな体験や思い出づくりのため、感染防止対策を厳重に行い列車の利活用を促した。



②【高齢者公共交通利用券の交付】

新型コロナウイルスの影響で、外出や移動の自粛により高齢者の外出機会が減っているため、通院や買い物など必要な外出を支援し、体力や気力を減らさないようにするため、公共交通機関の運賃として利用できる「市高齢者公共交通利用券」を交付した。利用してもらうことにより、交通事業者の経営支援に寄与した。



③【公共交通に対する意識の醸造】

中学生が作成した明知鉄道新聞を主要駅に貼り、鉄道の楽しさ、鉄道の魅力などを周知した。



④【公共交通の利便性の向上】

標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)データを整備(市自主運行路線、営業路線、鉄道)してオープンデータ化し、誰でも自由に活用可能とした。(Googleで経路検索可能)
今年度、恵那駅にデジタルサイネージによる運行情報の案内を設置予定。

⑤【交通計画の拡充及び組織体制の再編】

本年7月より法定協議会の下部組織において、交通体系の見直しを行ってきた。この見直しは、交通事業者、学識経験者、国土交通省、岐阜県及び連携協定法人の協力を得ながら、5回にわたる検討を重ね、次年度以降に重点的に取り組んでいく方針を定めた。今後は、組織体制の再編も含め、計画の改正を行い、まとめた取り組み方針を基に、地域のニーズを的確に把握して、地域の状況にあった公共交通サービスの提供を行う。

地域公共交通網形成計画における目標

- ・第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画に定めてある評価指標により確認を行う。

アウトプット指標		H29実績		R2実績	達成度		R5目標値
目標1 公共交通を「支える」 「活用する」地域住民 の活動促進	公共交通を「活用」する団体数	6団体 (達成度55%)	→	7団体 (R1実績)	63% (29年比+8%)	→	11団体
	ボランティア運転手養成講座の参加者数	0人/年 (達成度0%)	→	49人/年 (R1実績)	163% (29年比+163%)	→	30人/年
目標2 沿線への移住定住を促 す地域公共交通ネット ワークの形成	公共交通などで、沿線4高校に通 える中学校数	7校 (達成度78%)	→	7校	78% (29年比±0%)	→	9校
	自主運行バス利用者 満足度	94.6% (達成度99%)	→	91.0%	95% (29年比0%)	→	96.0%
目標3 域外から来た人や高齢 者が抵抗なく自然に移 動できる環境の整備	観光による公共交通利用者数 (観光列車、日帰り旅コース)(4月～翌年3月締)	16,222人 (達成度78%)	→	10,409人 (R1実績)	50% (29年比▲28%)	→	20,700人
	グリーン会員証の発売枚数 (4月～翌年3月締)	963枚 (達成度80%)	→	827枚 (R1実績)	69% (29年比▲11%)	→	1,200枚
	うち 上矢作地区(フィーダー)	24枚		28枚			30枚

アウトカム指標		H29実績		R2実績	達成度		R5目標値
1. 明知鉄道の年間利用者数 (4月～翌年3月締)		380,889人/年 うち定期外162,489人/年 通勤定期14,040人/年 通学定期204,360人/年 (達成度95%)	→	378,345人/年 うち定期外162,699人/年 通勤定期12,016人/年 通学定期203,630人/年 (R1実績)	95% (29年比0%)	→	400,000人/年
2. 広域幹線の合計の年間利用者数※1		196,005人/年 うち明智線118,941人/年 蛭川線27,716人/年 恵那峡線23,270人/年 中津川線29,503人/年(達 成度98%)	→	110,329人/年 うち明智線69,657人/年 蛭川線15,543人/年 恵那峡線7,469人/年 中津川線17,660人/年	55% (29年比▲43%)	→	200,000人/年
3. 自主運行バスの年間利用者数		194,557人/年 (達成度97%)	→	162,155人/年	81% (29年比▲16%)	→	200,000人/年

			利用者数(単位:人)			収支率(目標値20%)			満足度(目標値96%)			自己 評価
			H30年 度	R1年度	R2年度	H30年度	R1年度	R2年度	H30年度	R1年度	R2年度	
全体(広域幹線を除く)			190,181	181,350	166,008	19.9%	20.3%	20.4%	88.9%	86.2%	91.0%	B ₂
自主 運行 バス	旧 恵 那 地 区	大井長島地域 (市街地地区)	21,295	21,217	21,833	24.7%	25.3%	25.3%	86.0% ※1	90.9%	0%	B ₁
		東野地域	874	752	649	6.7%	6.1%	6.1%		100%	100%	B ₂
		三郷地域	25,468	23,925	21,833	41.1%	37.6%	37.6%		90.9%	83.3%	B ₂
		武並地域	18,539	17,772	17,244	36.2%	33.5%	33.5%		83.3%	83.3%※2	B ₂
		笠置地域	18,402	17,808	17,321	31.7%	30.9%	31.6%		100%	100%※2	B ₂
		中野方地域	32,683	31,626	29,206	31.9%	32.0%	32.2%		72.2%	76.9%	C
		飯地地域	7,062	6,100	5,676	35.2%	20.3%	20.4%		83.3%※2	83.3%※2	B ₂
	岩村地域 R1年度はデマンド		1,768	311	226	2.6%	13.7%	17.4%	100%	83.3%	83.3%	B ₂
	山岡地域 R1年度はデマンド 内数		6,931	4,236 (577)	3,900 (638)	4.2%	5.2% (22.9%)	5.2% (21.4%)	75%	81.8%	75.0%	C
	明智地域		31,130	29,512	26,768	23.3%	22.8%	23.2%	100%	100%	100%	B ₂
	串原地域		9,338	9,630	6,895	6.5%	6.9%	6.9%	100%	100%	100%	B ₁
	上矢作地域 (フィーダー)		14,977	15,232	11,283	6.8%	7.0%	7.0%	93.4%	88.9%	100%	B ₁

※1 旧恵那地域のH30年度満足度は主要路線の抽出調査による。

※2 回答が無かったため追加調査による。

評価基準

A：利用者が前年の1.01倍以上、収支率、満足度が目標値以上の場合

B₁：利用者が前年の1.01倍以上、又は収支率が前年を越えた場合

B₂：利用者及び収支率が前年を下回るが、満足度が80%以上の場合

C：利用者及び収支率が前年を下回り、満足度も80%以下の場合

		利用者数(単位:人)			収支率(目標値20%)			満足度(目標値96%)			自己評価
		H30年度	R1年度	R2年度	H30年度	R1年度	R2年度	H30年度	R1年度	R2年度	
有償運送	阿木地域	617	1,105	1,587	4.0%	4.9%	5.5%	－	75.0%	100%	B ₁
	いいじ里山バス	1,358	1,244	1,281	10.0%	8.3%	10.5%	100%	50.0%	100%	B ₁
	くしばす	－	881	985	－	9.0%	9.3%	－	50.0%	100%	B ₁

評価基準

A：利用者が前年の1.01倍以上、収支率、満足度が目標値以上の場合
B₂：利用者及び収支率が前年を下回るが、満足度が80%以上の場合

B₁：利用者が前年の1.01倍以上、又は収支率が前年を越えた場合
C：利用者及び収支率が前年を下回り、満足度も80%以下の場合

目標達成状況についての考察

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により政府が緊急事態宣言を発令し、不要不急の外出や通勤、通学等における公共交通利用が減り、自主運行バスは前年度より全体で9%減少、広域幹線路線（営業路線）は36%の減少となった。
- ・有償運送については利用者数、収支率は前年より増加したが収支率が目標値には至らなかった。阿木地域においては小学生の帰宅支援及び施設のオープンに合わせて時刻と路線の見直しを行ったところ利用者数が44%増加した。
- ・明知鉄道はR1年度はH30年度より7.3%の減少となり、グリーン回数券の発行数も10%の減少となった。NHK大河ドラマ「麒麟が来る」の効果を期待したが減少となった。

今後の方針

- ・社会情勢の変化は予測できないが、コロナ禍において、状況を見据えながら、鉄道、バス、タクシーなど複数の交通モードによって公共交通網を一体的に再構築して、実情に合った持続可能な公共交通ネットワークについての検討が必要。
- ・全体の満足度ではなく、不満、やや不満との意見に注目し、各地域と協議を行い改善策を実施する。

課題

- ・社会情勢の変化は予測できないが、コロナ禍において、状況を見据えながら、バス、タクシーなど複数の交通モードによって公共交通網を一体的に再構築して、実情に合った持続可能な公共交通ネットワークについての検討が必要。
- ・人口減少の進展は著しいことから利用者の減少に歯止めがかかっておらず、さらなる改善のスピードや質を高めていく必要がある。

今後の取り組み方針

◆交通計画の改正 (R3/12月)

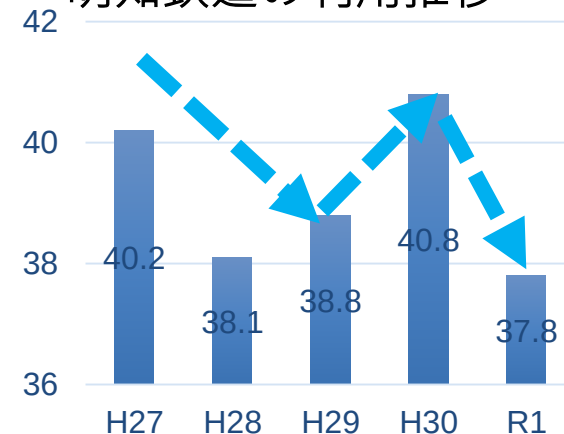
地域のニーズを把握し、地域の状況にあった公共交通サービス提供に改める。

- ・路線の見直し
 - 通学支援の検討 (高校生、小中学校のスクールバス)
 - 各地域路線の見直し
- ・移動データの取得と活用
 - 移動データ取得の調査・実証実験
- ・モードを跨いだ運賃設定 (MaaS協議会の設置)
 - 定額制乗り放題運賃やゾーン運賃の設定

◆モビリティマネジメントの推進 (利用促進)

- ・公共交通に慣れ親しんでもらうために、「1日おでかけプラン」を高齢者等と計画し、公共交通の乗り方教室を含めたおでかけを行う。

明知鉄道の利用推移



地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和 2年 12月 21日

協議会名： 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業） の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行（航）区 間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保 維持事業において、車両減価償却費等及び公 有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交 付を受けている場合、離島航路に係る確保維 持事業において離島航路構造改革補助（調査 検討の経費を除く。）を受けている場合は、 その旨記載）】	【事業評価の評価対象期 間において、前回の事業 評価結果をどのように生 活交通確保維持改善計画 に反映させた上で事業を 実施したかを記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に 実施されたかを記載。計画ど おり実施されなかった場合に は、理由等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量 的な目標・効果が達成された かを、目標ごとに記載。目 標・効果が達成できなかった 場合には、理由等を分析の上 記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を 記載。改善策は、事業者の取り組みだけでな く、地域の取り組みについて広く記載。特 に、評価結果を生活交通確保維持改善計画に どのように反映させるか（方向性又は具体的 な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はそ の旨記載
陸上交通に係る地域公共 交通確保維持事業 （地域内フィーダー系統）	(1)上矢作線 （大野-押山-岩村駅前）	前回の事業評価における改 善点を踏まえて、次の事業を 実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施さ れた。	B 【定量目標】 ○バス利用者アンケートの満足 度を令和5年度目標値となる数値 とする。 目標値（満足、やや満足の合計） 96.0%に対して、本年度（R2）は 100%となった。 ○自主運行バス利用者に対する 明知鉄道への乗り換え率を平成 29年度値以上とする。 目標値66.6%に対して、本年度（R 2）は38.5%であった。 ○グリーン会員証の発行枚数を 令和5年度目標値となる数値とす る。 確保維持計画に記載のある上矢 作町本年度目標値27枚（4～3 月）に対して、R2.10月末現在11 枚である。	今年度は利用者減により、回答者数も 減っている。満足度は、H29年度の 94.6%を基準としているが、今後目標値 が適正であるか、検討が必要。 乗換率については、外出自粛の中、乗 り換えて買い物へ行く人が減少してい る。今年度は経過を見て、利用者ニー ズに応じた対応を検討していく。 グリーン会員証の発行枚数は地域協 議会での承認も得てPRIはしているが、 外出自粛により昨年より発行枚数は落 ちている。 上矢作線については、地域の移動支援 検討会及び事業者と協働でニーズの把 握を行い、実態に合った路線の再編や PRを行い、公共交通に対する意識を高 め、さらなる利用促進を図る。
陸上交通に係る地域公共 交通確保維持事業 （地域内フィーダー系統）	(2)上矢作線 （横道車庫-道の駅-岩村駅前）	地域の移動支援検討会と、 実態にあったダイヤ改正に むけた検討を行い、路線の 再編を行った。また、検討会 委員によるバス乗車体験を 行った。	A 計画どおり事業は適切に実施さ れた。	B	
陸上交通に係る地域公共 交通確保維持事業 （地域内フィーダー系統）	(3)上矢作線 （押山-横道車庫-岩村駅前）	高齢者公共交通利用支援 事業として、公共交通利用チ ケットを配布した。	A 計画どおり事業は適切に実施さ れた。	B	
陸上交通に係る地域公共 交通確保維持事業 （地域内フィーダー系統）	(4)上矢作線 （大野-上矢作振興事務所前-岩村駅 前）	明知鉄道と接続するダイヤ の見直しを行い、地域公共 交通マップの作成した。	A 計画どおり事業は適切に実施さ れた。	B	
陸上交通に係る地域公共 交通確保維持事業 （地域内フィーダー系統）	(5)上矢作線 （大野-横道車庫-岩村駅前）		A 計画どおり事業は適切に実施さ れた。	B	
陸上交通に係る地域公共 交通確保維持事業 （地域内フィーダー系統）	(6)上矢作線 （横道車庫-道の駅-バロー岩村店）		A 計画どおり事業は適切に実施さ れた。	B	
陸上交通に係る地域公共 交通確保維持事業 （地域内フィーダー系統）	(7)上矢作線 （大野-押山-バロー岩村店）		A 計画どおり事業は適切に実施さ れた。	B	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 2年 12月 21日

協議会名：	明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	陸上交通における地域内フィーダー系統
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	基本的な方針: 多くの担い手が連携し、多くの方々が安心して暮らし、おでかけできるまち 目標1 公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進 目標2 沿線への移住定住を促す地域公共交通ネットワークの形成 目標3 域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる県境の整備